

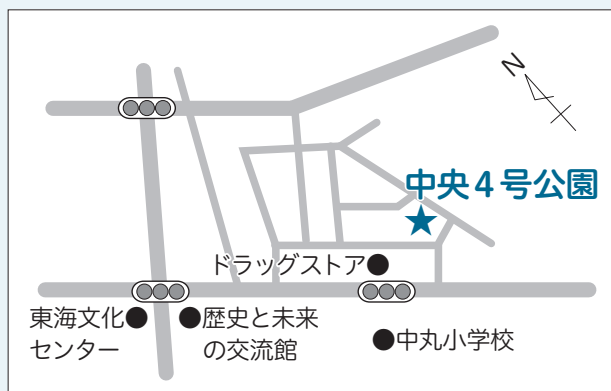
4月1日(月)から利用できます 中丸小学校の近くに 新しい街区公園「中央4号公園」が完成しました!



東海中央土地区画整理事業地内で整備を行っていた「中央4号公園」の工事が、無事に完了しました。円滑な工事へのご協力をいただき、ありがとうございました。

今後は利用開始に向けての準備を行い、4月1日(月)から利用できるようになります。新しい街区公園を、皆さんぜひご利用ください。

【問い合わせ】道路整備課幹線道路整備推進室
(☎282-1711 内線1232)



ふるさと歴史

〜歴史を再発見〜

新発見! 幻の小さな鉄道の切符箱

歴史と未来の交流館学芸員

林 恵子

今から約100年ほど前、石神駅(現在のJR東海駅)から村松山虚空蔵堂へ向けて、小さな鉄道「村松軌道」が走っていたことをご存じでしょうか。

この村松軌道、実は写真が1枚も見つかっていません。さらに残されている資料もごくわずか、現在村に残された痕跡も常磐線下の村松開渠のみ、そしてたった数年しか走らなかったことから、「幻の鉄道」といわれています。

さて、かつて駅西口前にあったコンクリート造りの建物(写真①)は村松軌道の発起人の一人であり、後に代表取締役になった根本秀之介が所有する建物でした。この建物には代々当主に伝わる言い伝えがあります。それが「この建物は村松軌道のレールでできている」というものです。そして、平成31(2019)年、駅西口の再開発においてこの建物が解体されると、言い伝え通り、建物の骨組みとなっていた無数の村松軌道のレールが発見されたのです。資料がほとんど無いことで有名な



【写真② 村松軌道の切符箱(根本家所蔵)】



【写真① 村松軌道のレールが骨組みとなっていた建物】

村松軌道のレールの発見は大きな注目を集めました。

そしてその根本家から、新たな資料が発見されました。それが、「村松軌道の切符箱」(写真②)です。縦28センチメートル、横29センチメートル、奥行き8.5センチメートルの木箱が2つあり、それぞれ持ち歩きができるように取手が付いています。中には切符を入れる棚が作っており、「大人片」、「小人片」、「大人往復」、「小人往復」と書かれています。一番下には小銭を入れたと考えられる引き出しが付いています。村松軌道の駅は「石神駅」、「真崎駅」、「阿漕駅」の3駅です。一つの箱のふたの裏面には「昭和貳年六月拾四日阿漕駅備品」と書かれており、この切符箱が阿漕駅で使われていたことが分かります。

幻の小さな鉄道、村松軌道が、東海村の芋畑の中を走り抜け、小さな駅では、現在の車掌バッグのように乗務員がこの切符箱を持ち歩いている、そんな光景が目には浮かぶようです。